町田市景観計画による色彩の基準

景観計画による届出対象行為と規模

【建築物の建築等】

建築物の新築、増築、改築若しくは移転、外観を変更することとなる修繕若しくは模様替又は色彩の変更で次のいずれかに該当するもの

・延べ面積>10㎡

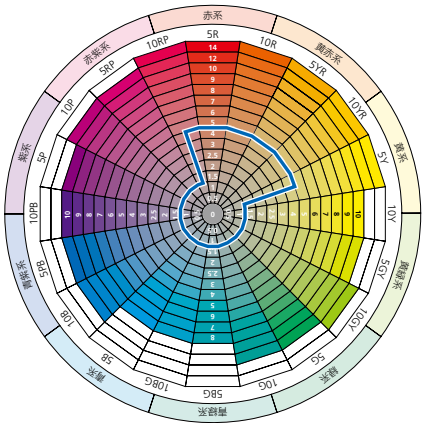
【工作物の建設等】

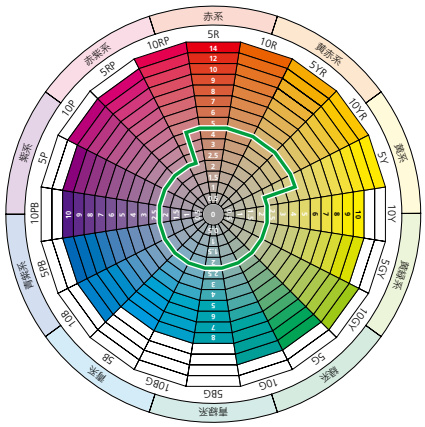
工作物の新設、増築、改築若しくは移転、外観を変更することとなる修繕若しくは模様替又は色彩の変更で次のいずれかに該当するもの

・高さ>1.5m　など

基準の適用部位・面積	色相	明度	彩度
外壁基本色	0R～4.9YR	3以上8.5未満	4以下
	5.0YR～5.0Y		
	その他		1以下
屋根色（勾配屋根）	0R～5.0Y	6以下	4以下
	その他		2以下

色相ごとの彩度許容範囲

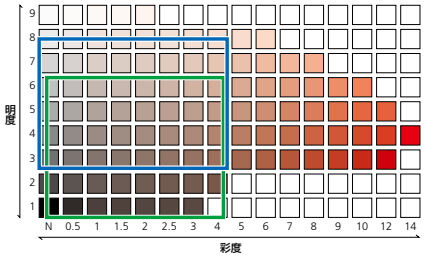




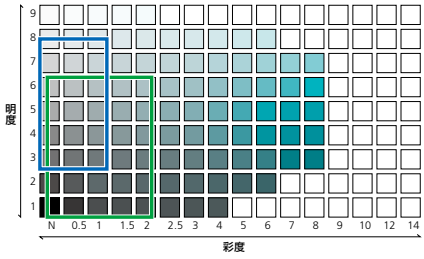
凡例

- 外壁基本色の使用可能範囲（外壁各面の4/5以上はこの範囲から選択）
- 屋根色の使用可能範囲

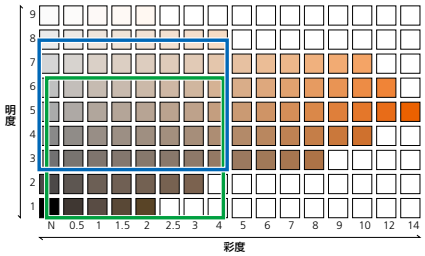
R（赤）系の色相



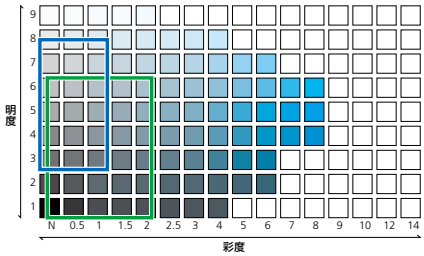
BG（青緑）系の色相



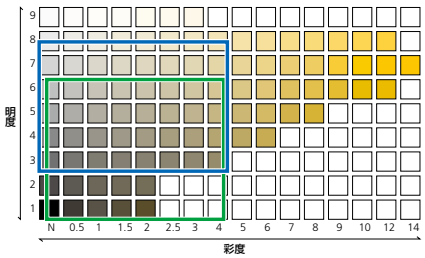
0YR～4.9YR（黄赤）系の色相



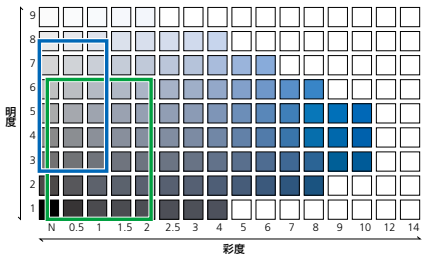
B（青）系の色相



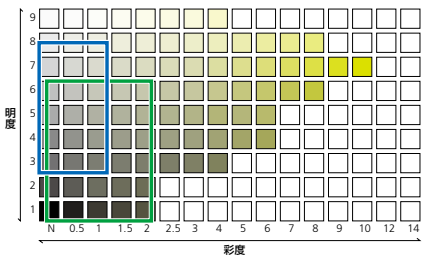
5YR（黄赤）～5Y（黄）系の色相



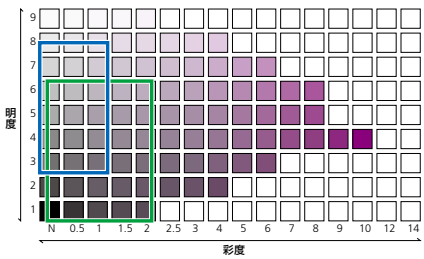
PB（青紫）系の色相



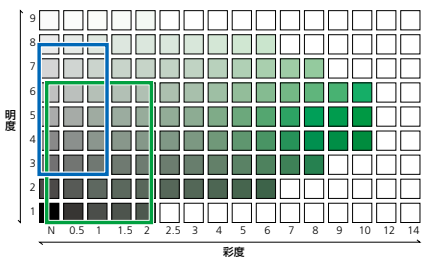
5.1Y（黄）系～GY（黄緑）系の色相



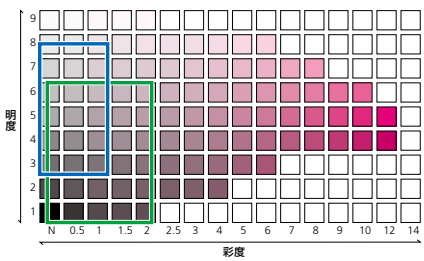
P（紫）系の色相



G（緑）系の色相



RP（赤紫）系の色相



色彩景観の基本的な考え方

市の顔にふさわしい暖かく洗練された色彩景観の形成

町田駅前通り景観形成誘導地区では、沿道の建築物のほとんどが暖色系色相を基調としている現況をふまえ、基本色の色相を暖色系又は無彩色の範囲に限定し、商業地としての華やかさの中にも暖かく洗練された色彩に誘導します。

「市の顔」として落ち着きやまちの基調となっている「暖かさ」が感じられる沿道景観を形成するため、高い位置の広告物等はできるだけ控えるよう配慮します。

色彩基準に適合した色彩の例

（上段：マンセル記号、下段：日本塗料工業会標準色見本帳番号）

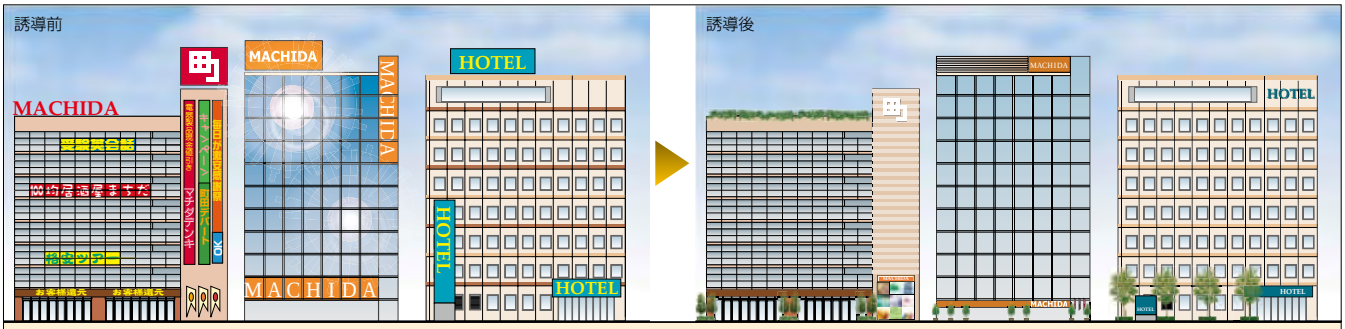
建築物の外壁

5.0YR8.0/1.0 [15-80B]	7.5YR8.0/2.0 [17-80D]	10YR9.0/0.5 [19-90A]	10YR8.5/1.0 [19-85B]	10YR8.0/2.0 [19-80D]	2.5Y8.5/1.0 [22-85B]	5.0Y8.0/1.0 [25-80B]	N9.0 [N-90]
5.0YR7.5/1.0 [15-75B]	7.5YR7.0/4.0 [17-70H]	10YR8.0/0.5 [19-80A]	10YR8.0/1.0 [19-80B]	10YR7.0/2.0 [19-70D]	2.5Y7.5/2.0 [22-75D]	5.0Y7.5/1.0 [25-75B]	N8.0 [N-80]
5.0YR7.0/2.0 [15-70D]	7.5YR6.0/2.0 [17-60D]	10YR7.0/0.5 [19-70A]	10YR7.0/1.0 [19-70B]	10YR7.0/3.0 [19-70F]	2.5Y7.0/2.0 [22-70D]	5.0Y7.0/1.5 [25-70C]	N7.5 [N-75]
5.0YR6.0/2.0 [15-60D]	7.5YR6.0/4.0 [17-60H]	10YR6.5/0.5 [19-65A]	10YR6.5/1.0 [19-65B]	10YR6.0/4.0 [19-60H]	2.5Y6.0/2.0 [22-60D]	5.0Y6.0/2.0 [25-60D]	N7.0 [N-70]
5.0YR5.0/2.0 [15-50D]	7.5YR5.0/3.0 [17-50F]	10YR5.0/1.0 [19-50B]	10YR5.0/2.0 [19-50D]	10YR5.0/4.0 [19-50H]	2.5Y5.0/3.0 [22-50F]	5.0Y5.0/2.0 [25-50D]	N6.0 [N-60]

建築物の屋根

5.0R4.0/2.0 [05-40D]	5.0YR3.0/3.0 [15-30F]	5.0YR4.0/4.0 [15-40H]	10YR5.0/4.0 [19-50H]	10YR4.0/3.0 [19-40F]	2.5Y5.0/3.0 [22-50F]	5.0GY4.0/2.0 [35-40D]	N5.0 [N-50]
10R3.0/3.0 [09-30F]	5.0YR2.0/1.0 [15-20B]	2.5YR3.0/4.0 [12-30H]	7.5YR4.0/4.0 [17-40H]	10YR3.0/2.0 [19-30D]	2.5Y3.0/2.0 [22-30D]	5.0PB3.0/2.0 [75-30D]	N3.0 [N-30]

景観形成のイメージ



町田駅前通りは、町田駅から新しい市役所へとつながり［まちの顔］ともいえる場所にあたります。建築物等の色彩は現況の特長を継承し、落ち着いた暖色系の色彩を基本とします。また、屋外広告物については、過度の表現とならないように地色に高彩度色を用いることを避け、大きさを抑えるとともに場所や数量など建築物への収まりも考慮します。敷地内の緑化もまち並みにうるおいを与える重要な要素です。